

— 1 学年 SS 基幹探究 探究基礎 I 報告 —

◇日 時 6月4日～7月10日の月・木・金曜日

◇場 所 本校 教室・理科実験室・図書館・探究講義室

私たち1学年探究科学科80名は、SS基幹探究 探究Iの活動を週3回のペースで行っています。この授業では、今後の探究活動の基礎となる読み解く力の育成を目指しています。生徒は1班16名の5班に分かれ、数学、理科、英語、国語、地歴公民の5教科を各3時間でローテーションし、生徒の活動を中心とした授業に取り組んでいます。休校措置により、予定から大幅にスタートが遅れたために、例年より授業時間が1時間ずつ削減されましたが、生徒同士で意見を交わして考えを深めて行くことで、密度の高い活動を行うことができたと考えています。また、自分の考えを発表し、相手の考えを聞く大切さや楽しさを学ぶことができました。

数学では、自然数の n 乗の和の法則について考えました。差に着目した数式や図を用いて多角的に考察し、発表をしました。

理科では、身近な科学現象に関する文献を読解した後、課題に取り組み考察力を深めました。また、実験の小さな発見から、現象に対する考察を行いました。

英語では、英語で記された文章から、素早く必要な情報を取り出す「スキヤニング」と、素早く概要を捉える「スキミング」という方法を学び、内容を理解してまとめる力を高めました。

国語では、『奥の細道』を現在の富山県の古地図などの資料を活用して、読解する力を養いました。『奥の細道』と弟子の随行日記の共通点や相違点から、松尾芭蕉の越中での実際の旅の様子を読み解きました。

地歴公民では、統計資料や日めくりカレンダーなどの身近なものから情報を正確に読み取り、論理的に思考する力を伸ばしました。

すべての教科の活動において、情報を正確に読み取るという読解力の重要性を実感できました。また、意見を伝え合うことで考えを深めていく楽しさや面白さも実感できました。これまでの活動を通して学んだ力は、今後の探究活動の基礎となるため、さらに伸ばしていきたいと考えています。

